

2022年度

# HCFIコンソーシアム

## 研究開発部会 テクニカルセミナー

9/13 (火)

15:30-18:00 (15:15 開場)

テーマ

人が主役となるものづくりを  
実現する基盤技術

### 第一部 15:30-17:00 講演

#### 講演1



15:30-16:15

講師：一刈 良介 様  
産業技術総合研究所  
人間拡張研究センター 主任研究員

従業員行動計測に基づく生産性とQuality of Workingの分析・指標化に関する取り組み (仮)

#### 講演2



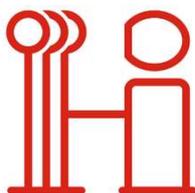
16:15-17:00

講師：倉田 成人 様  
筑波技術大学  
産業技術学部 産業情報学科 教授

地震観測、構造ヘルスマニタリングへの自律型時刻同期センシング技術の応用 (仮)

### 第二部 17:10-18:00 ディスカッション

- ・事前および開催期間中のチャットで講師の皆様へのご質問を受け付けます。
  - ・オンライン接続に関する詳細は参加登録された皆様にメールでご案内いたします。
  - ・お申し込みは各社ご担当者様までお問い合わせください
- ※参加対象は研究開発部会部会員企業のみです。



## HCFIコンソーシアム

「人が主役となるものづくり革新推進コンソーシアム」  
Consortium for Human-Centric Manufacturing Innovation

<https://www.hcmi.cons.aist.go.jp>

主催: HCFIコンソーシアム研究開発部会

## ▶ 講演概要

### ▶ 講演1 従業員行動計測に基づく生産性とQuality of Workingの分析・指標化に関する取り組み（仮）

- ▶ 本講演では、講演者の研究グループで実施する自律航行技術に基づく屋内測位技術の研究事例を紹介するとともにサービス現場での従業員行動の分析・改善支援において屋内測位技術を適用した事例を紹介する。近年、働き方改革が推進される中で、生産性だけでなくQoW (Quality of Working) を高めていくことが注目されている。本講演では、QoWに関する関連動向を整理し、講演者らの研究グループでの実施事例を紹介する。

### ▶ 講演2 地震観測、構造ヘルスマニタリングへの自律型時刻同期センシング技術の応用（仮）

- ▶ 地震観測、構造ヘルスマニタリングにおける時刻同期センシングの重要性と、ビルの構造健全度評価及び損傷評価手法について述べ、無線センサネットワーク、チップスケール原子時計を応用したセンサ開発と適用事例について講演する。世界文化遺産である軍艦島の建築構造物群を対象とした事例、超高層ビルと大学建物での事例に加え、産総研CPS研究センターで予定している取組などについても紹介する。

## ▶ 講師紹介

### ▶ 一刈 良介

- ▶ 産業技術総合研究所 人間拡張研究センター 主任研究員
- ▶ 2010年立命館大学大学院博士後期課程総合理工学専攻修了。立命館大学、南カリフォルニア大学でポスドク研究員をした後、2013年より産業技術総合研究所勤務。博士（工学）。VR/AR/MR、屋内測位、サービス工学等の研究に従事。

### ▶ 倉田 成人

- ▶ 筑波技術大学 産業技術学部 教授
- ▶ 東京大学大学院 工学系研究科 建築学専門課程（地震研究所）修士修了。鹿島建設（株）研究部門を経て、2014年より、筑波技術大学 産業技術学部 教授。博士（工学）。専門は、地震工学、構造工学、建築情報学。IoTを応用したスマート建築、軍艦島・アンコールワットを対象とした世界遺産モニタリング、チップスケール原子時計による自律型時刻同期センシング技術等の研究に従事。